

轉じ、安政五年十一月廿三日正四位上に陞

り、慶應二年四月四日齊奏致仕したので封を

襲ぎ、改めて加賀守と稱し、五月十日參議に

任じ、中將故の如くであつた。明治二年六月

二日去年北越戦争の功により賞典祿一萬五千

石を受け、同月十七日版籍奉還を許され、改

めて金澤藩知事に任じ、七月十五日從三位に

陞つたが、四年七月十四日廢藩の命を受け、

八月十一日金澤を發して東京に移住、七年五

月十八日相模熱海に薨じた。享年四十五。諡

して恭敏公といひ、神式を以て東京日暮里に

葬つた。後廿六年七月十四日從二位を追贈せ

られた。慶寧には蘭學・晋莪・先春堂の號があ

り、歌集に月令和歌・恭敏公詠草がある。

マヘダヨシユキ 前田良之 前田利春の五

男。利家の弟。信長の士佐脇某の養子となつ

て佐脇八郎といひ、屢戦功があつたが、後

徳川家康に依り、元龜三年十二月廿二日遠江

味方・原合戦に傷を負ひ、營に歸つて歿した。

嗣子なく、一女は篠原出羽守一孝の室となり、

慶長三年八月薨歿、法隆圓淨院妙淨。金澤大

蓮山妙法寺に葬つた。

マヘダヨダイジキ 前田四代自記 四卷、

吉田軌中著。前田利家・利長・利常・光高の年

代略記で、晋家見聞集などよりは委しく、概

ね加陽年譜に等しいものである。慶長三年四

月利長が中納言に昇進の時、青山豊後・岡嶋

喜三郎の叙爵したこと、その外他の記録にな

い事件も見える。

マヘダヨリタカ 前田寄孝 加賀藩臣。通

稱主膳大膳。七日市藩祖前田利孝の三子。前

田光高に仕へて三千石を領し、天和二年魚津

郡代に任じ、元祿九年御免、十二年六月十八

日歿。子孫藩に世襲する。

マヘダリヨウチンセツ 前田領珍説 ↓ゼ

ニヤイツケン 錢屋一件。

マヘダロクスケ 前田六佑 加賀藩臣。御

小將に嗣し、祿五百三十石二斗七升。貞享四年

三月廿五日江戸に於いて古江彌左衛門と喧嘩

し、當座に死んで家断絶した。

マヘナミ 前波 鳳至郡諸橋郷に屬

する部落。古へは沖波・宇加川と共に諸橋と

いはれたものである。能登名跡志に、『前波、

鶴川より一里五町云々、家數五十軒許。此村

に治郎兵衛とて、利家公より御扶持戴きし山

廻役あり、又洞光寺とて禪宗あり、氏神稻荷

宮此邊の大社にて、神目伊豆伎彦六郷の大社

稻荷大明神と誓ける額あり。』とあり、又三日

月日記には『前波驛に雌雄石あり。沖波の方

に男石、前波の方に女石あり。其形男根女根

のごとし。夜なく通ふといへり。』と記す

る。

マヘナミイン 前波石 鳳至郡前波に産す

る石材。輝石安山岩で、黝色を呈し、質緻密

で堅固である。

マヘナミカエモン 前波加右衛門 越前府

中に於いて前田利家に仕へ、千三百石を領し

た。子孫藩に世襲する。

マヘナミカゲヒテ 前波景秀 初陣忠言。

通稱長三郎・瀬八郎・七兵衛。寛政二年叔父小

太郎景之の祿三の一を襲ぎ、十二年本祿三百

石に復し、組外に嗣し、享和二年馬廻組に轉

じ、文政六年竹澤御殿書院組に編せられたが、

翌年又馬廻に復し、延之助御抱守二ノ丸御廣

式御用達・會所奉行・御普請會所横目に歴任

し、弘化二年四月七日六十一歳を以て歿した。

マヘナミガハ 前波川 鳳至郡に

在りて、源を二子山麓に發し、前波で海に注

ぐ。流程八杆餘。一名を蘇川又は諸橋川とも

いふ。

マヘナミスケノジョウ 前波助丞 初め大

炊。父加右衛門初めて前田利家に仕へて千三

百石を受け、長子加右衛門千石を襲いだすが、

助丞は次子で三百石を分かれた。元和元年

五月七日助丞大坂城攻撃に奮戦し、重創を得

て歿。子なくして断絶した。

マヘナミタダタカ 前波忠隆 通稱儀太夫。

寶曆四年父儀兵衛の遺知二百五十石を襲ぎ、

寶曆十三年九月六日指扣、明和二年十二月廿

四日知行を召放された。その妹が盜賊白銀屋

與左衛門の妻であつた爲である。

マヘナミマサタカ 前波正位 通稱大十郎。

儀久兵衛。父久兵衛正理の遺知三百石を領

したが、御馬廻から大小將・御近習となり、

天明六年三月廿六日遠島の宣告を受け、四月

十八日出發した。時に廿四歳。寛政四年六月

十日配所御免となつたが、家系は断絶した。

マヘナミマサヨリ 前波正因 通稱和兵衛。

寶永元年兄小左衛門の遺知二百石を襲ぎ、後

百石を加へた。その職は割場奉行・御預地方

御用・御先筒頭より延享四年御持筒頭に至り、

寛延三年八月四日七十二歳を以て歿した。

マヘナミヤヘイ 前波彌兵衛 初めて前田

利長に仕へて三百石を領した。子孫藩に世襲

する。

マヘノガハ 前之川 鳳至郡に在つて、水

源を會又領山から發し、藤ノ瀬領で二又川に

落合ふ。落合まで流程一杆九許。

マヘハマ 前濱 羽咋郡藤懸郷にあ

る部落。

マヘヤマテ 前山出 珠洲郡大谷

の内の小字。

マメアメ 大豆餛 鹿島郡七尾の産を名物

とする。大豆粉を餛で練り固めたものである。

マメイタギン 大豆板銀 ↓チョウギン

丁銀。

マメガラノタイコ 大豆殻の太鼓 金澤眞

宗東派西福寺に、奇人彌七の作つた大豆殻の

太鼓といふ太鼓がある。珠洲郡松波なる眞

宗西派松岡寺の太鼓の胴も、同じく豆がらの

木であるといはれる。太鼓を一から二からと

數へるから起つた韻でなからうか。

マメダ 大豆田 江沼郡上河崎領の廢村。

江沼志稿に、上河崎に大豆田、松といふ遊が

村址であると記する。

マメダ 大豆田 石川郡五ヶ庄に屬する部

落。

マメダカクバ 大豆田角場 石川郡増泉に

屬する向増泉なる持筒足輕組地附近の射的場

で、その地大豆田に近いから大豆田角場とい

はれたが、本名は増泉角場である。越登賀三

州志來因概覽附録に、大豆田放場は天和二年

六月に落成したと記する。明治廢藩の際之を

毀つた。

マメダクミチ 大豆田組地 藩政中持筒足

輕の組屋敷で、石川郡増泉なる向増泉の地内

であつたが、大豆田に近いから大豆田の組地

といはれた。天和二年二月廿三日奥村兵部か

ら年寄本多安房守等宛の書面に、『加藤重左衛

門奉願組地、竹田五郎左衛門下屋敷續増泉村

領之内。右持筒足輕被下屋敷・角場等奉願候

趣被開召届。』とあつて、重左衛門は持筒頭で